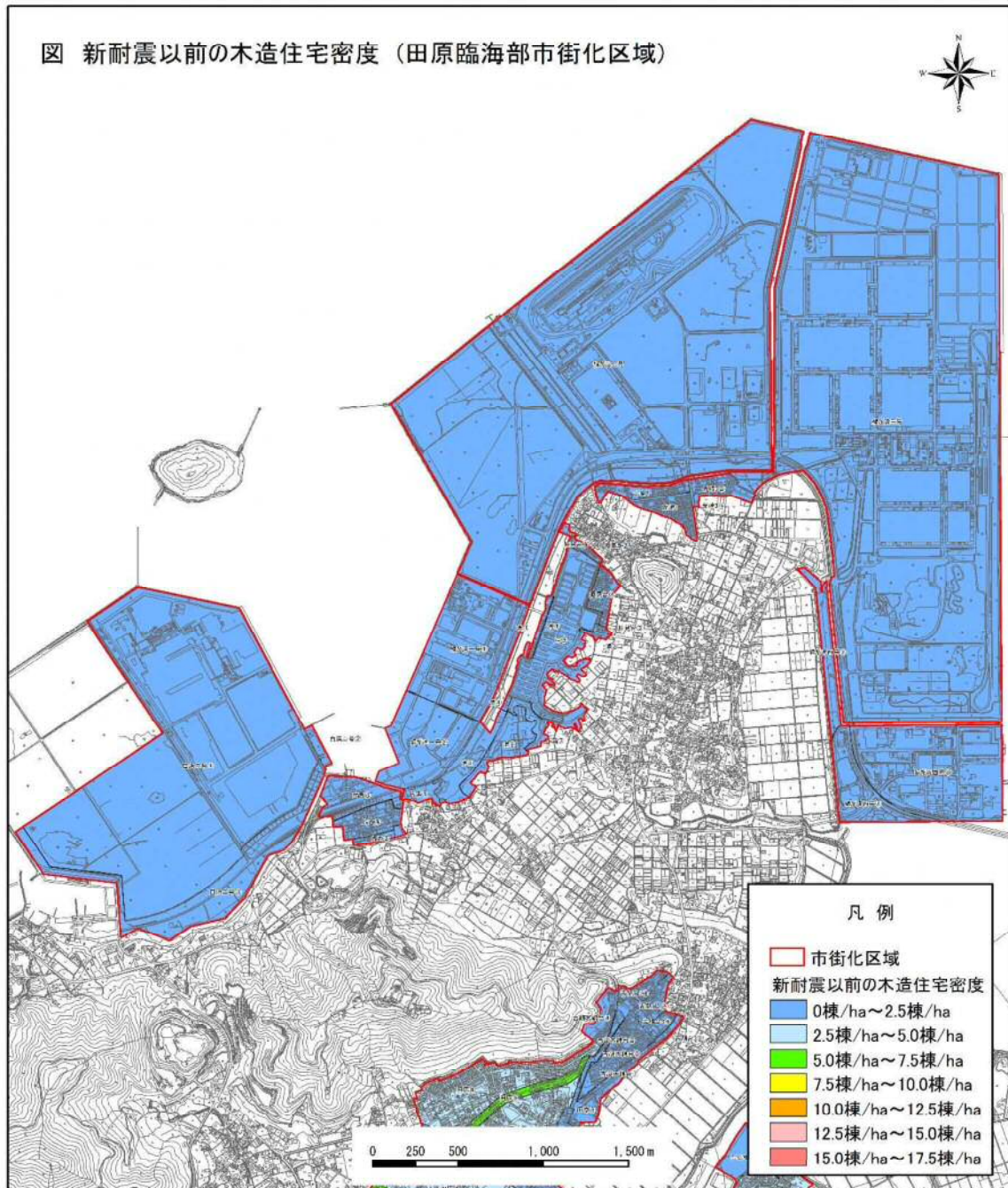
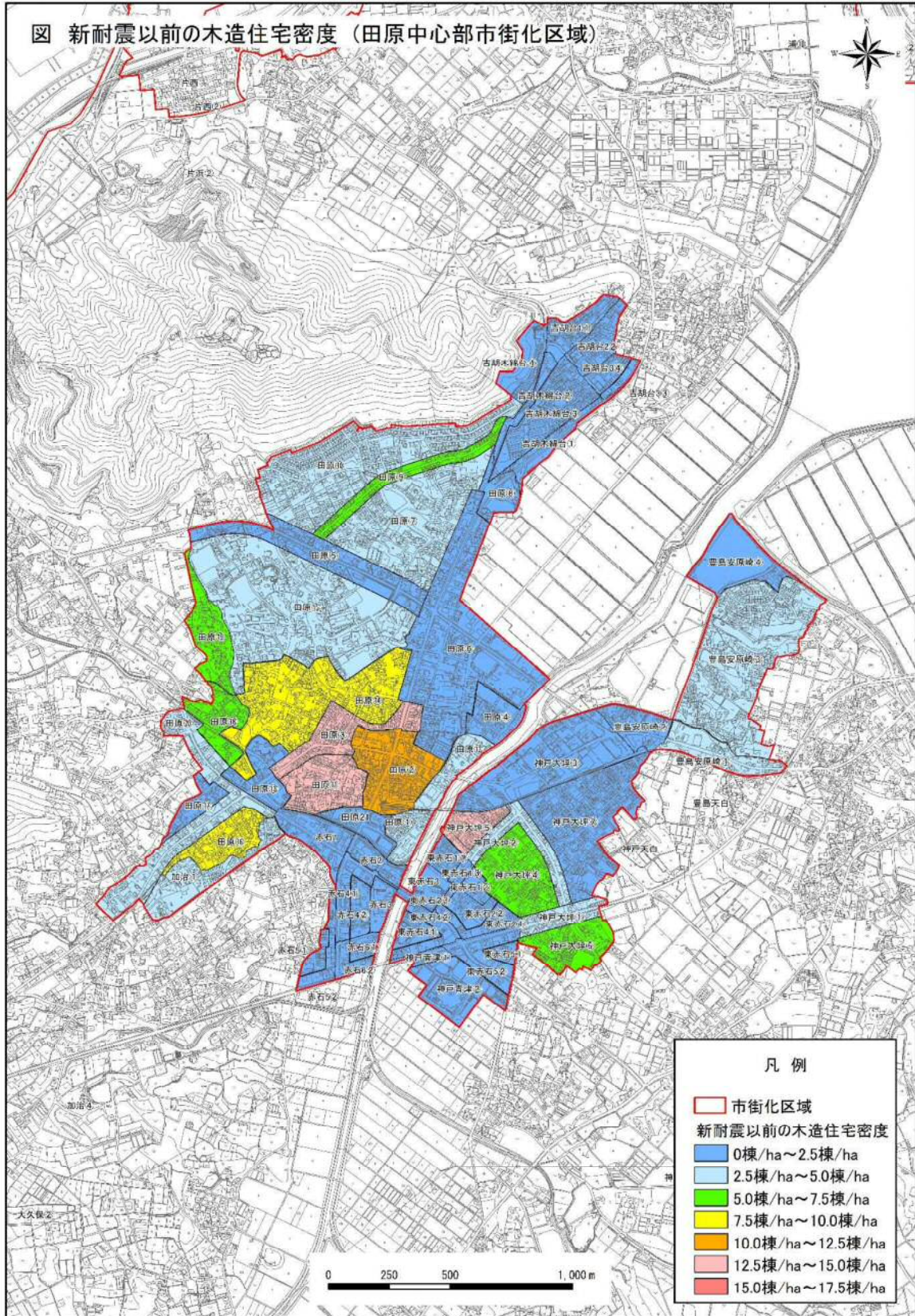


## 資料-5 地域別新耐震以前の木造住宅密度

新耐震以前の木造住宅の密集度（1haあたりの棟数）を、市街化区域は都市計画基礎調査の調査区ごと、市街化調整区域は建物が50戸以上連なって立地している区域ごとに集計しました。結果は次の図及び表のとおりです。









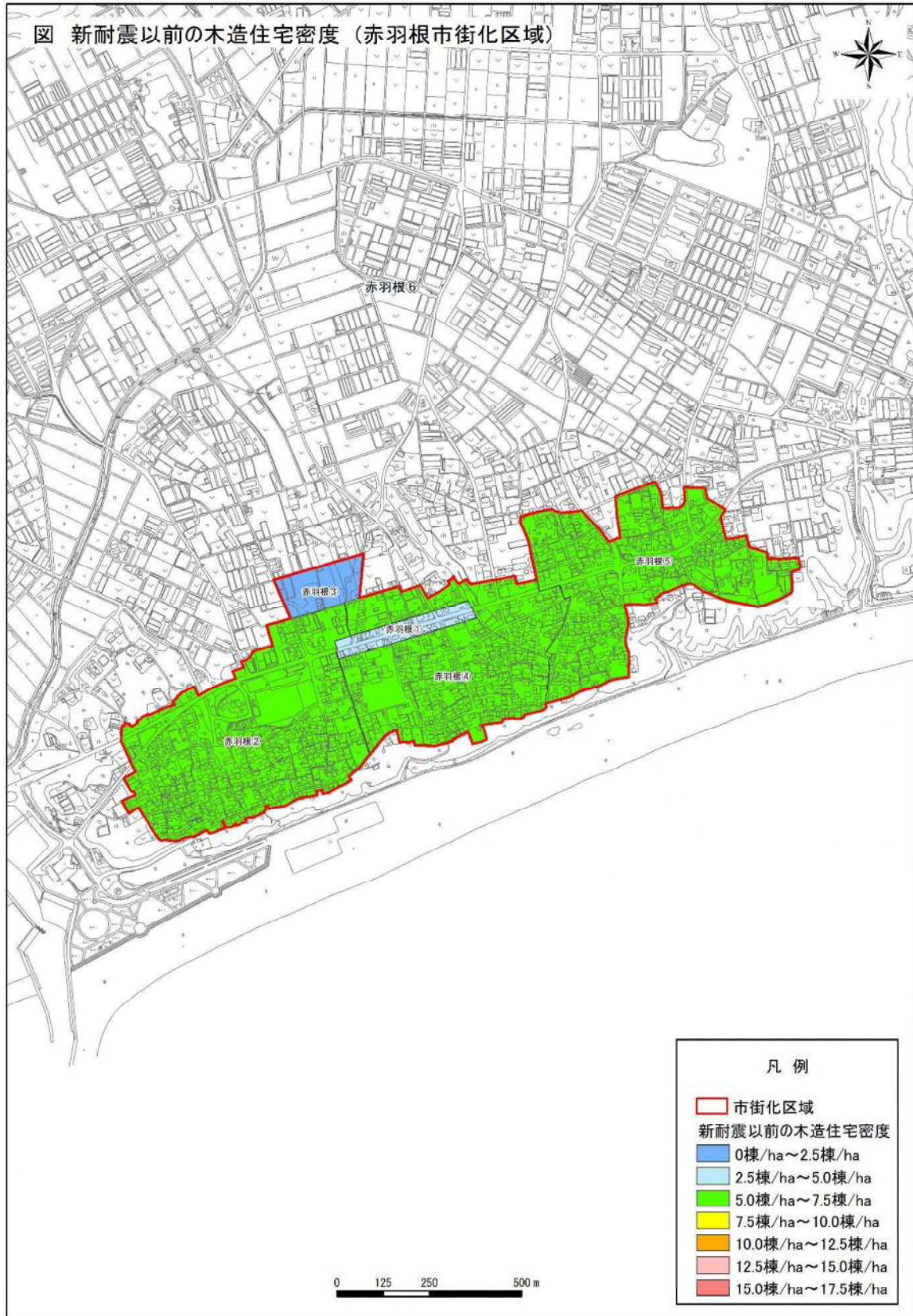
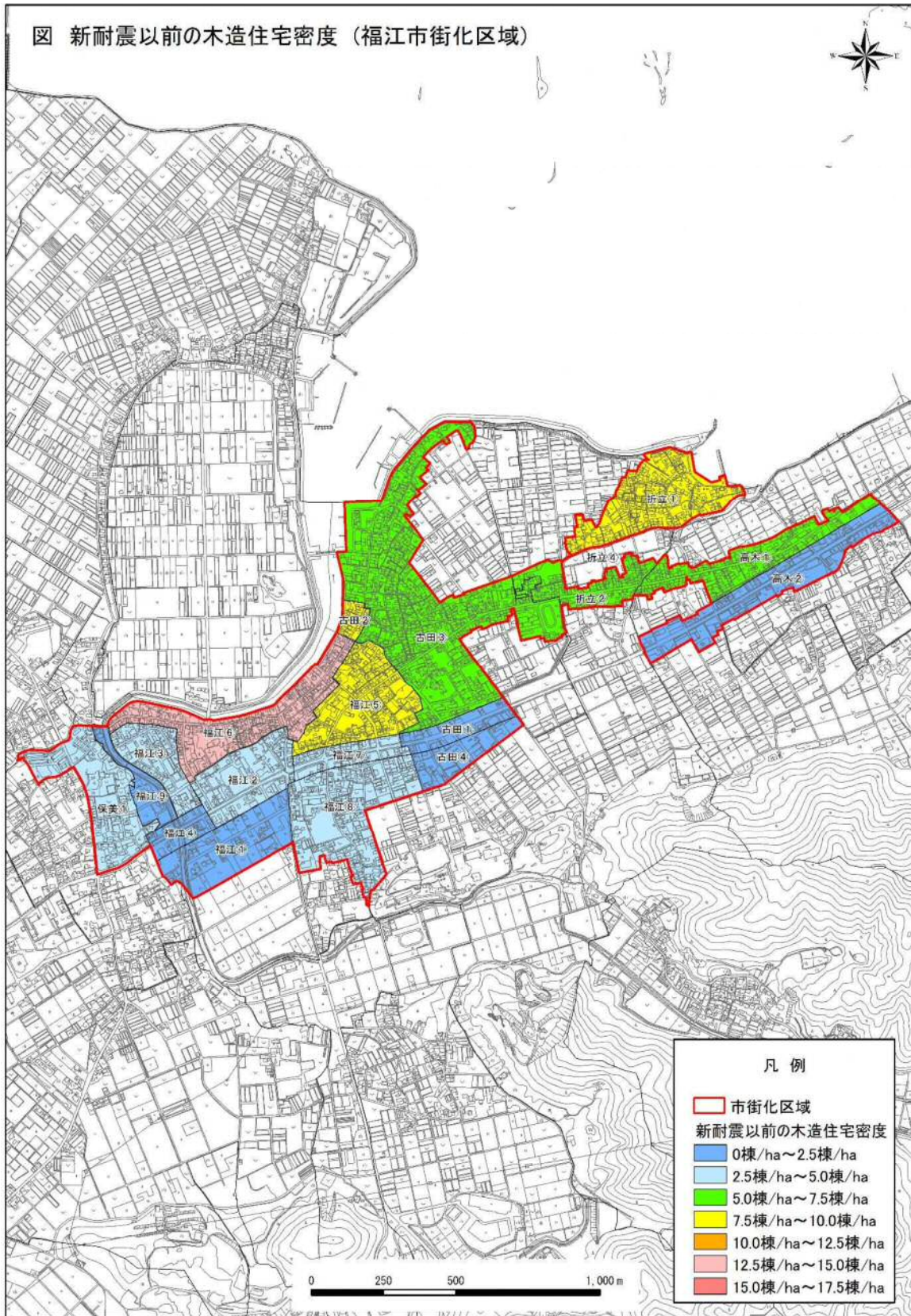
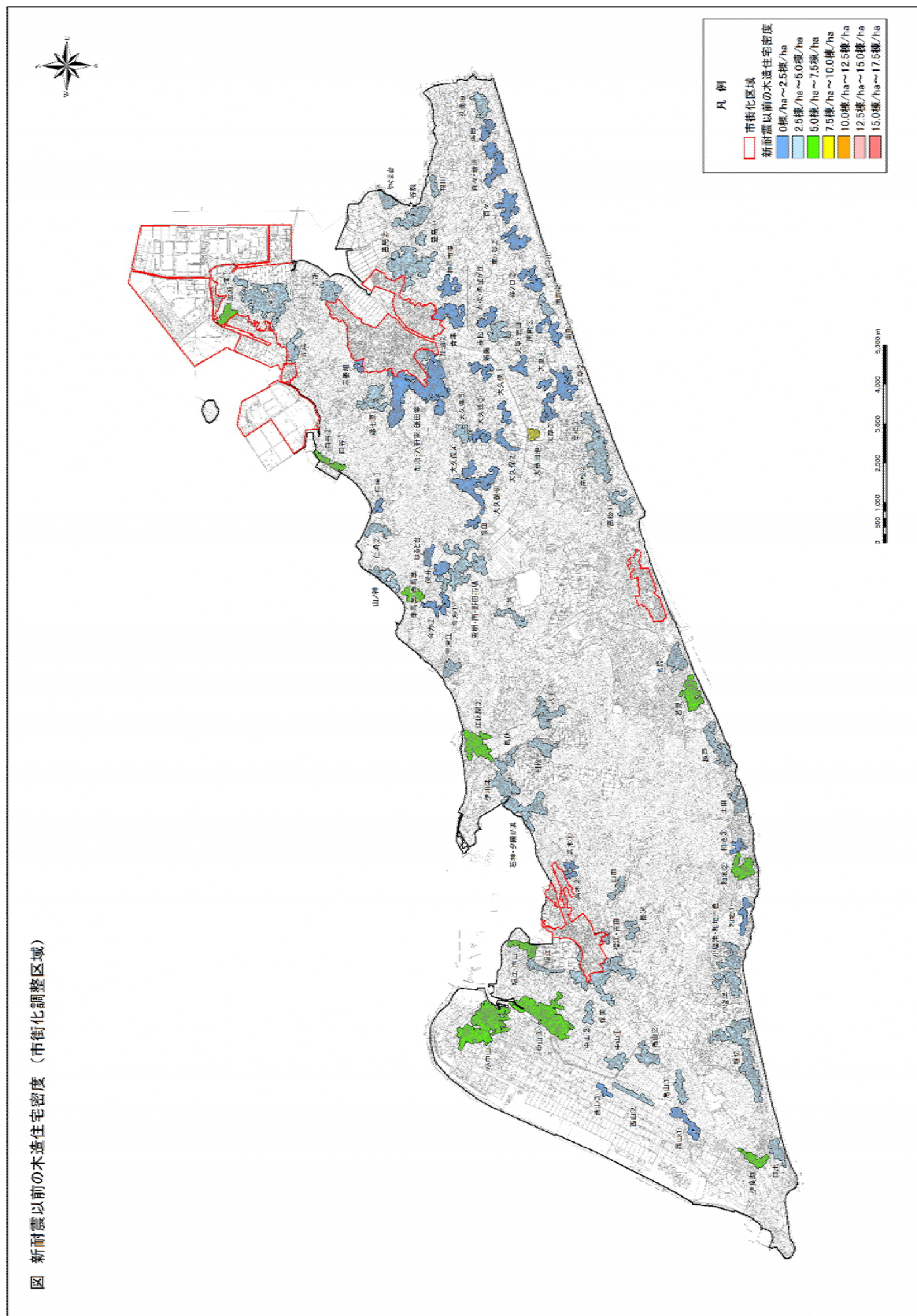




図 新耐震以前の木造住宅密度（福江市街化区域）







資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化区域）1

地域名	地区面積 (ha)	新耐震以前 木造住宅 (棟)	新耐震以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
豊島安原崎①	4.78	13	2.72	
豊島安原崎②	3.64	7	1.92	
豊島安原崎③	22.54	66	2.93	
豊島安原崎④	7.11	0	0.00	
吉胡台1①	3.22	2	0.62	
吉胡台2②	3.20	1	0.31	
吉胡台3③	0.67	0	0.00	
吉胡台3④	1.59	0	0.00	
吉胡木綿台①	2.53	1	0.40	
吉胡木綿台②	1.57	2	1.27	
吉胡木綿台③	7.41	17	2.29	
吉胡木綿台④	3.46	0	0.00	
加治①	5.54	14	2.53	
田原①	2.70	11	4.07	
田原②	9.10	99	10.88	○
田原③	6.30	79	12.54	○
田原④	3.57	0	0.00	
田原⑤	9.06	18	1.99	
田原⑥	26.58	54	2.03	
田原⑦	18.22	64	3.51	
田原⑧	2.60	1	0.38	
田原⑨	4.60	31	6.74	
田原⑩	20.86	94	4.51	
田原⑪	6.33	82	12.95	○
田原⑫	3.50	12	3.43	
田原⑬	4.06	5	1.23	
田原⑭	18.50	158	8.54	
田原⑮	32.94	107	3.25	
田原⑯	4.61	36	7.81	
田原⑰	2.15	3	1.40	
田原⑱	4.22	28	6.64	
田原⑲	5.21	29	5.57	
田原⑳	10.93	50	4.57	
田原㉑	2.90	0	0.00	
神戸大坪①	2.83	12	4.24	
神戸大坪②	3.64	14	3.85	
神戸大坪③	14.50	31	2.14	
神戸大坪④	7.81	52	6.66	
神戸大坪⑤	2.88	38	13.19	○

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化区域）2

地域名	地区面積 (ha)	新耐震以前 木造住宅 (棟)	新耐震以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
神戸大坪⑥	5.25	32	6.10	
神戸大坪⑦	14.86	29	1.95	
神戸青津①	0.89	0	0.00	
神戸青津②	5.97	0	0.00	
赤石1	4.28	4	0.93	
赤石2	2.13	0	0.00	
赤石3	1.60	0	0.00	
赤石4①	2.75	1	0.36	
赤石4②	1.84	0	0.00	
赤石5①	1.06	0	0.00	
赤石5②	1.85	0	0.00	
赤石6①	1.06	0	0.00	
赤石6②	1.42	0	0.00	
東赤石1①	1.49	0	0.00	
東赤石1②	1.00	0	0.00	
東赤石1③	0.56	0	0.00	
東赤石2①	2.12	2	0.94	
東赤石2②	1.86	1	0.54	
東赤石2③	0.24	0	0.00	
東赤石3	2.08	0	0.00	
東赤石4①	1.68	0	0.00	
東赤石4②	2.29	0	0.00	
東赤石5①	0.83	0	0.00	
東赤石5②	3.81	0	0.00	
浦①	1.08	1	0.93	
浦②	7.04	0	0.00	
浦③	0.50	0	0.00	
浦④	0.33	0	0.00	
浦⑤	24.94	0	0.00	
浦⑥	6.97	0	0.00	
浦⑦	2.33	0	0.00	
片西①	5.70	0	0.00	
片西②	1.48	0	0.00	
片西③	7.78	2	0.26	
片浜①	1.96	0	0.00	
白浜二号①	185.64	0	0.00	
白浜二号②	1.25	0	0.00	
白浜二号③	26.01	0	0.00	
緑が浜一号①	36.30	0	0.00	

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化区域）3

地域名	地区面積 (ha)	新耐震以前 木造住宅 (棟)	新耐震以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
緑が浜一号②	20.50	0	0.00	
緑が浜二号	343.20	0	0.00	
緑が浜三号	398.03	0	0.00	
緑が浜四号①	44.17	0	0.00	
緑が浜四号②	11.99	0	0.00	
緑が浜四号③	6.55	0	0.00	
光崎1	4.71	0	0.00	
光崎2	3.80	1	0.26	
光崎3①	0.22	0	0.00	
光崎3②	4.01	0	0.00	
赤羽根①	2.06	9	4.37	
赤羽根②	24.09	136	5.65	
赤羽根③	2.54	0	0.00	
赤羽根④	19.01	106	5.58	
赤羽根⑤	19.16	107	5.58	
姫見台①	1.45	0	0.00	
姫見台②	3.41	0	0.00	
姫見台③	0.38	0	0.00	
高木①	7.00	43	6.14	
高木②	9.46	10	1.06	
折立①	9.65	96	9.95	
折立②	4.40	32	7.27	
古田①	3.10	0	0.00	
古田②	1.12	9	8.04	
古田③	28.01	163	5.82	
古田④	3.42	2	0.58	
福江①	8.18	7	0.86	
福江②	7.40	29	3.92	
福江③	4.64	22	4.74	
福江④	2.33	3	1.29	
福江⑤	8.95	68	7.60	
福江⑥	10.93	147	13.45	○
福江⑦	3.16	8	2.53	
福江⑧	12.04	40	3.32	
福江⑨	2.56	5	1.95	
保美①	8.78	24	2.73	



資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化調整区域）1

地域名	地区面積 (ha)	新耐震以前 木造住宅 (棟)	新耐震以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
谷熊	28.27	85	3.01	
豊島①	6.30	21	3.33	
豊島②	66.59	198	2.97	
吉胡	20.97	70	3.34	
浦①	5.93	19	3.20	
浦②	74.12	266	3.59	
波瀬	13.33	78	5.85	
片浜	16.88	58	3.44	
白谷①	5.64	42	7.45	
白谷②	5.86	33	5.64	
加治②	10.85	29	2.67	
加治・八軒家・鎌田等	115.71	231	2.00	
藤七原	26.75	68	2.54	
三番組	5.19	2	0.39	
大久保①	9.33	13	1.39	
大久保②	11.01	15	1.36	
大久保③	11.09	15	1.35	
大久保④	8.93	21	2.35	
大久保⑤	12.60	55	4.36	
大久保⑥	39.41	97	2.46	
新美	13.51	33	2.44	
彦田	6.58	13	1.98	
神戸市場	17.07	40	2.34	
大草②	29.60	49	1.66	
大草③	14.75	19	1.29	
大草④	6.21	10	1.61	
大草団地	7.25	67	9.24	
大草・志田	11.39	21	1.84	
南町①	11.37	18	1.58	
南町②	10.75	35	3.26	
南町③	6.03	9	1.49	
谷ノ口①	12.19	26	2.13	
谷ノ口②	7.73	11	1.42	
東ヶ谷②	20.72	46	2.22	
赤松	17.22	46	2.67	
赤松・希望が丘	13.29	22	1.66	
青津	29.50	53	1.80	
百々	23.96	54	2.25	
百々・新浜	29.72	61	2.05	

資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化調整区域）2

地域名	地区面積 (ha)	新耐震以前 木造住宅 (棟)	新耐震以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
浜田	11.85	26	2.19	
久美原	17.63	49	2.78	
雲明・南・野田市場	62.66	195	3.11	
今方①	8.35	15	1.80	
今方②	7.46	13	1.74	
保井	10.40	23	2.21	
東馬草・西馬草	15.18	105	6.92	
仁崎①	6.04	15	2.48	
仁崎②	12.92	53	4.10	
山ノ神	18.66	47	2.52	
ほると台	9.24	0	0.00	
やぐま台	12.92	52	4.02	
相川	8.55	28	3.28	
芦	13.53	36	2.66	
高松①	19.31	77	3.99	
高松②	42.78	160	3.74	
高松③	12.36	31	2.51	
若見	29.86	154	5.16	
越戸	26.57	83	3.12	
土田	15.39	72	4.68	
池尻	21.80	102	4.68	
宇津江	12.21	58	4.75	
江比間②	35.17	214	6.08	
八王子	26.35	97	3.68	
村松	17.68	60	3.39	
馬伏	15.02	40	2.66	
伊川津	25.33	125	4.93	
石神・夕陽が浜	37.54	100	2.66	
山田	10.56	36	3.41	
高木①	5.14	7	1.36	
高木②	4.78	11	2.30	
福江・古田	5.00	20	4.00	
長沢	10.35	32	3.09	
福江	12.33	43	3.49	
西山①	19.32	48	2.48	
西山②	12.35	36	2.91	
西山③	6.19	9	1.45	
保美	62.97	163	2.59	
福江・向山	15.20	82	5.39	



資料編

表 新耐震以前の木造住宅密度（市街化調整区域）3

地域名	地区面積 (ha)	新耐震以前 木造住宅 (棟)	新耐震以前木造 住宅密度 (棟/ha)	10棟/ha 以上
中山①	14.28	49	3.43	
中山②	9.77	25	2.56	
中山③	74.06	414	5.59	
小中山	83.33	541	6.49	
亀山①	15.07	46	3.05	
亀山②	18.06	60	3.32	
伊良湖	14.94	83	5.56	
日出	15.94	75	4.70	
堀切	70.54	316	4.48	
小塩津	24.51	77	3.14	
小塩津・和地一色	21.46	88	4.10	
和地①	13.23	27	2.04	
和地②	23.64	128	5.41	
和地③	8.20	13	1.58	

## 資料－6

## 田原市耐震改修促進計画意見交換会

## 1. 開催概要

## ○開催日時・場所

- ・日時：【第1回】令和2年10月12日（月） 10：00～11：30  
【第2回】令和2年10月26日（月） 10：00～11：30
- ・場所：田原福祉センター3階会議室

## ○次第

第1回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会のあいさつ</li> <li>2. 意見交換会参加者紹介</li> <li>3. 田原市耐震改修促進計画について計画の概要説明</li> <li>4. 木造住宅の耐震化に向けた現状と課題について現状や取り組み等の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模地震が起きた際の被害想定について</li> <li>・田原市の木造住宅の耐震化の現状</li> <li>・木造住宅の耐震化に向けて</li> </ul> </li> <li>5. ブロック塀等の転倒防止に向けた現状と課題について現状や取り組み等の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック塀等に関すること</li> <li>・ブロック塀等に関する対策の現状</li> </ul> </li> </ol>
第2回	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回意見交換会の確認</li> <li>2. 木造住宅の耐震化及びブロック塀等の転倒防止に向けた対策について 地域ぐるみの耐震活動に向けた普及啓発活動について (令和元年度清田校区減災まちづくり事業)</li> <li>3. 閉会のあいさつ</li> </ol>

## ○参加者（敬称略）

- ① 名古屋工業大学高度防災センター 客員教授 川端 寛文
- ② 中山校区会長 小川 悟（令和2年度 自主防災活動推進地区）
- ③ 大草校区会長 藤原 喜郎（令和2年度 自主防災活動推進地区）
- ④ 田原市民生・児童委員会 高橋 純子
- ⑤ 田原安心・安全住まいる会 木村 普昌
- ⑥ 田原安心・安全住まいる会 森下 義和



## 2. 議事（要旨）の概要

### [全般に関する意見]

- ・ 東日本の地震は震源地が遠くであったが、南海トラフによる地震は田原市に近いところで起きることから、大きな揺れとなる。地震による人的被害は、火災、津波によることもあるが、建物の倒壊により避難ができないことによることがあり、建物の耐震性が重要になる。また、耐震性の低い建物は古い住宅であり、この住宅の耐震性を高めることにより、人的被害をなくすことが可能である。

### [住宅の耐震化に向けた取り組みに関する意見]

- ・ 地元の方から見れば、民間業者に対して不信感がある。安心感を得るために、自治会メンバーが同伴して、地元の業者等の専門家が訪問する必要がある。
- ・ 一人暮らしの高齢者の方は、比較的古い建物に住んでいるケースが多い。高齢者の方は住んでいる住宅より、今の自分の生活、歩くこと、病気、認知症などの自分自身、日々の生活がぎりぎりの状況であるため、耐震改修まで手が回らないのが現実である。
- ・ 耐震改修工事は、家具の移動や多額の工事費がかかり、大変なことだと思っている。
- ・ 高齢者の一人暮らしの方が住んでいる比較的小さい住宅で、外観から判断し、補助金内で耐震改修工事まで可能と思われる住宅が比較的多くある。
- ・ 地元の大工さんだけでは、営業に不慣れな方も多く、また不信感もあるため飛込での営業はしにくい状況がある。
- ・ 高齢者の方も耐震に関しては、自分の命、孫のことを考えると何とかしたいと思っているので、働き掛けが必要だと思う。
- ・ 改修には多額の費用が掛かるというイメージがある。
- ・ 高齢者で、住宅も平屋が多く、このままで良いという方が多いとのことであった。
- ・ 近所の大工さんに相談したら、筋交いを入れたりしてお金もかかるし、大変だから止めたほうがいいと言われた。
- ・ 高齢者は会合があっても、自分からはまず行かない。そうした方々にどのように伝えるかということがあがあるが、伝える際には、まず詐欺ではないという安心感を与えることと、耐震改修にお金はさほどかからない、思うほど大変ではないということを理解してもらうことが重要だと思う。特に、自宅に住んでいながら改修工事ができるというのは驚くと思う。

具体的な対策・対策のヒント

- ・ 高知県の黒潮町では、5年前から大きく動き出したが、それまではほとんど動いていない状況であった。県を中心に地元の大工に働きかけを行い、耐震改修工事の手ほどきを行った。小さな町においては、新築をはじめ地元の大工さんが中心となって建築工事を行っている。地元大工の意識が変わることによって耐震改修工事が進むようになった。地元の人ができることが大事である。地域で、皆で考えて進めることが大事である。また安価な工法を広めることが大事である。
- ・ 低コスト工法を採用することで、補助金内で工事ができ、自己負担がなくなるのであれば、工事をする人が増えると思う。信用性の高い業者や市役所職員の仲介を得て低コストで簡単に実施できるのであれば、その点を周知することで改修工事の実績が増えると思う。
- ・ 市職員のアピール力、説明力が重要である。実際、高齢者の方は、耐震に関する情報量が少なく、心配性なので、信頼性のある業者さんや市役所の方に説明をしていただき、また高齢者の方は理解力も落ちてきているのでよりわかりやすい、納得しやすい説明が必要である。
- ・ 耐震改修に関するPR活動は、広く大きくやっても参加者が少ないため、あまり効果的ではない。自治会の集まりでも役員選などの大事な会でも参加者が少ない状況である。どうすればいいかという、広く大きくではなく、該当地区を決めてピンポイントでPRする方が効果的であると思う。
- ・ 田原市において毎年11月に自主防災の訓練を行っているが、内容がマンネリ化している状況である。その時に今日の様な耐震改修の話をしてはどうかと思う。その時にパンフレット等を配るだけではそれだけで終わってしまうので、可能であれば地元の大工さんに参加いただき、耐震改修工事の内容、費用等の説明等を行うこと、説得力が増すと思う。興味のある方は、質問もされる方もいるので、試しにやってみる価値はあると思う。
- ・ ハウジングアンドコミュニティ財団や減災協（愛知建築地震災害軽減システム研究協議会）の補助を使うなどしてある程度展開できると思う。
- ・ 民生委員も耐震に関して正しい知識を持つておくことは重要だ。
- ・ 耐震のPRのために人を集めるのは大変であるが、防災訓練のように人が集まっている場に出向いてPRするのが効果的だと思う。
- ・ 耐震改修について説明する側の設計士や大工が従来の工法等で高い見積を出してし



まっでは改修が進まないなので、設計士や大工に勉強してもらうことが重要である。

- ・ 大工さんがリフォームなどを頼まれた際に、現場をみて耐震改修もできそうと判断したら建築士さんにつなげるという仕組みさえできれば良い。
- ・ 大工さんを耐震改修に対する理解度のランク付けをすることも考えられる。そうすることで、大工さんも上のランクを目指して頑張れるのではないかな。
- ・ 大工の組織が渥美と田原にあり、その組織の会長さんなどに説明を行って会合でそれぞれの大工さんに広めてもらう。
- ・ 効果が上がりやすそうな地区を選定して先行的に進めることで徐々に広がっていくのではないかな。
- ・ PRの方法として、自治会長は毎年変わっていくので、自治会長に向けて周知を図ることで徐々に知識を広めることも考えられる。自治会長向けの説明資料などがあると良いと思う。
- ・ ケアマネージャーさんなどからも耐震改修のPRができれば門戸は広がるのではないかなと思う。
- ・ 意識をどう変えていくかということで、まずトップの自治会長さんにこういう方法もあるということを知りていくことが良いと思うし、来年の防災訓練でも伝達していきたい。

#### **【住宅の耐震化に向けた補助に関する意見】**

- ・ 所有者の方の認識としては、診断を行った場合は、工事まで行わなければならないとの認識を持つ方が多くいることから、診断すら行えないケースもある。
- ・ 耐震改修のみであれば補助金内に収まる場合が多い。
- ・ 現在は補助金が設計と施工をあわせて一括 140 万円となっているが、設計を完了して、その工事費用と、お客さんの考えていた改修金額に開きがある場合、施工をキャンセルするケースがあり、設計単独に対する補助金が無いことから、設計費用をお客さんに負担していただくことになる。設計料に対する補助があれば良いと思う。

### [ブロック塀の耐震化に向けた取り組みに関する意見]

- ・ 危険なブロック塀の所有者本人に自覚がないので、積極的な働きかけが必要である。
- ・ ブロック塀については、倒れて被害が発生した場合、所有者に民事的な責任が発生することがあることから、対応が必要である。
- ・ 空き家のブロック塀が通学路に面している場合があり早急な対応が必要である。

#### 具体的な対策・対策のヒント

- ・ ブロック塀に関しては、大地震が起きれば古いものは必ず倒壊する。
- ・ 所有者、管理者の責任は免れないので、そうしたリスクを訴えながら進めることが重要である。

### [ブロック塀の耐震化に向けた補助に関する意見]

#### 具体的な対策・対策のヒント

- ・ 通学路沿いにも危険なものがあるが、そういったところほど補助金を増やすことができないかと思う。そうすることで、危険度の高いところから優先的に解消できるのではないか。